石の角のみならず、己の神経も研ぎ澄ます作業。

石屋の世界は分業ながです。採石場で石を採掘する人に始まり、役物・仏像彫刻・灯籠・墓石などの用途によって分かれて、さらにそこから磨きや刻みや字堀りの職人さん（石工（イシク））の手によって仕上げられていきます。

お墓の石材としては、青石という砂岩が使われることもありますが、花崗岩（カコウガン）・安山岩・玄武岩などの火成岩が耐久性の面から圧倒的に多いですね。特に花崗岩に分類される庵治石（アジイシ）が、硬度や色目の風合いでは世界でもナンバーワンの墓石で、私が特に思い入れのある石ながです。

庵治石は香川県高松市の瀬戸内海に突き出た牟礼（ムレ）町と庵治町だけで採れる石で、他の花崗岩に比べて石英・長石・雲母などの結晶が小さいのが特徴で磨くほどに青黒い艶を帯びてきます。けれども自然にある状態では傷や錆が多く、墓石として使われるのは現地で採掘される総量のたった４％にしか満たない、大変稀少な石ながです。

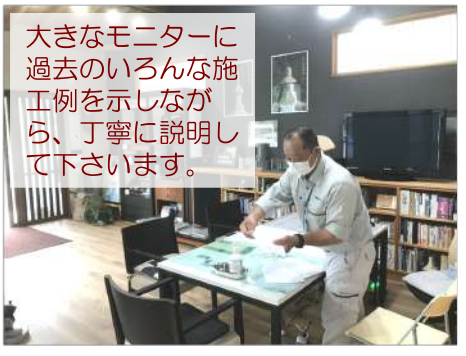
庵治石だけではないですが、現地から調達した稀少な石材に細心の注意を払いながら作業は始まります。先ずは何カ所にも楔を打ち込んで割の作業からになります。そして石を規定の寸法に切断していく作業になりますが、これには丸鋸のようなダイヤモンドカッターを使います。触ってもらってわかる通り、回転する刃先はそこまで尖ってなくて、切ると言うよりも叩き削っていくような感じです。

無事に切断し終えても、ここからの磨きの作業が更に大変ながです。実は、切断の時の寸法はこの後磨きをかけてさらに縮んでいくことを予め計算に入れてやっています。つまり一回だけジャーと磨いて終わりじゃなくて、ここから６段階以上研磨版を変えて１段階ずつ丁寧に磨いていきます。砥石の目が細かくなるにつれて、前の段階の跡を確実に消しながら進まないと、深みのある磨き艶がでません。また、熱を持たないように切断と研磨の作業中は常に水を流しながらなるべく粉塵を吸い込まないように作業してますが、昔は機械が無かったので、石工さんの中には肺をやられて亡くなる人が多かったそうですね。

次に字堀に写りますが、これは機械任せではなく、職人が圧縮したエアーで彫り込む道具を持って行なっています。とくに破片が飛散しやすい作業になるので、大きな箱の中に石材を固定して、職人は外から厚手の手袋を嵌めた手を入れてマスクを着け、粉塵が付いてすぐ視界が悪くなる小さな窓を除きながら神経を尖らせての作業になります。これまで護国寺さんの檀家様からお預かりした墓誌版もこのような作業で彫り込ませていただきました。こうして仕上がった石材を墓所まで運搬し、最後は設置の作業となり、その後各菩提寺のお坊さんから開眼（カイゲン）供養をしていただいて、石は石材から『手を合わす対象としてのお墓』になるがです。

最後に当社のホームページにも書いていることながですが、私はこれからも、ご先祖様や亡くなった人を大切にする事は、とても「大事」なことと伝えていきたいと願っております。その大事に敬う気持ちさえ伝われば「こころの豊かさを廻向（エコウ）してもらえる」と信じております。葬送にかかわる従事者として、「本質」を伝えていければと想います。

伝統的な石塔だけでなく、個性的な自然石のお墓も多数手がけられています。



大きなモニターに過去のいろんな施工例を示しながら、丁寧に説明して下さいます。

横倉石材（いしを なごむ）

TEL：0120-140-756

佐川町加茂3338-2

（国道３３号線沿い）

＜定休日＞　日曜日

★ ホームページも充実しています！